

令和6年度学校評議員に係る諸報告について（報告）

宮城県田尻さくら高等学校

1 学校評議員(学校関係者評価者)に意見を求めた事項及び学校評議員の主な意見

事項	学習指導
意見	多様な生徒が在籍している中、少人数授業の特色を生かし、個々の生徒に寄り添ったきめ細かな学習指導をされている。学習指導要領に基づく、生徒個々の能力に応じた、魅力ある授業の構築や一人でも多くの生徒が自ら学びたいと意欲を持てる学習指導を引き続きお願いしたい。
事項	生徒指導
意見	社会との係わりで、地域の委員会・団体との係わりをさらに深め、社会人としての自覚を持てるような活動（地域連携活動、ボランティア活動、地域交流会）に積極的に参画できるような学校でこれからも指導をお願いしたい。生徒と保護者によりそうながらも、社会自立を目指した指導を今後もお願いしたい。
事項	進路指導
意見	社会人としての地域に貢献できる人材の育成を今後もお願いしたい。職場体験などを通して、進路意識を早い段階から構築できるように、進路に係る学習では生徒に長期的な視点を持たせながら進路決定につなげる取組みを今後も続けて欲しい。保護者にも求人票が見れるような工夫や進路決定者への指導など、生徒や保護者にとって良い取組みを今後もお願いしたい。
事項	特色ある学校
意見	生徒が主体的に活動し、楽しく企画し参加する工夫が学校行事の中で感じられる。地域が田尻さくら高校の取組みに関心を持つようになっている。 学校の存在自体が特色あり、開校以来設立の意義を教職員の方々が理解し取り組んでいる。そこからさらに特色のある学校づくりを目指していることが大変素晴らしい。地域連携を活発に行っているのは素晴らしいが、先生方が疲弊しないようにしてほしい。
事項	防災教育
意見	隣接する保育園の避難訓練を合同で実施することが、地域との連携のみならず、他人を思いやる気持ちや、コミュニケーション力の向上の一助にもなる取組みだと思う。 防災ボランティアなど、生徒にとって次の一歩のチャレンジや成長につながる機会だと思うので、様々な活動をぜひ続けてほしい。

2 上記1を踏まえて、学校運営の改善に取り組んだ（取り組む予定の）事例及び成果（期待される成果）

事例	<p>①遠隔授業のスキル共有や、ICT機器活用推進のための研修会を実施し、職員の技術向上を図った。少人数での授業展開の工夫等、年2回の公開研究授業を活用し授業力向上に努め、生徒の「主体的・対話的で深い学び」につながる具体的な実践に学校全体として取り組んだ。</p> <p>②県外視察や校内研修を通して、配慮を要する生徒への学習支援や個別最適な学びについて研修を行い、本校での学習指導の研究を深めている。不登校傾向が続く生徒には、自宅で授業が受講できる同時双方向型の授業を調整し、2講座で実施した。</p> <p>③生徒の困り感に対してより迅速に対応するため、特別支援コーディネーターを各年次に配置し、さらに通級指導を実施した。</p> <p>④地域との関わりや学校行事における実行委員会組織、自治会活動、愛好会活動等を通して、生徒が主体性をもって活動できるような場を提供し、社会を意識した行動がとれるよう取り組んだ。</p> <p>⑤「さくらクエスト」（総合的な探究の時間）として、長期的な視野に立ち、計画的に職業に関する学習を進めた。</p> <p>⑥ハローワークのWebサービスを活用したり、求人票をスマホで検索し、最新の情報が生徒やその保護者に届くように調整した。また進路指導室は常に開放し、新たに自主学习室を整備したことで、気軽に利用できるようにした。</p> <p>⑦さくら高祭では、生徒の主体性を生かし、活気ある行事にすることができた。スポーツ祭、球技大会においても、生徒の実態を見極め、内容を変更しながらよりよい行事にしようという意見を出し合い実施することができた。</p> <p>⑧地域の教育施設に働き掛け、幼保連携型認定こども園、児童館、小学校へ図書サポーターによる本の読み聞かせ活動を実施した。「田尻さくら通信」の発行に加え、HPの充実や、高校教育課HPへ本校に係る情報の掲載など、情報発信をさらに充実させた。</p> <p>⑨外部からの不審者等の危機管理対策の更なる充実のため、1階の校舎の出入口のすべてに防犯カメラを設置し、安全で地域に開かれた学校の推進を図った。近隣の施設との合同避難訓練、防災ボランティア等の活動をとおして、実際の災害時を具体的に想定し、自助・共助の意識の大切さを学ぶ機会を充実させていく。</p>
成果	<p>①新学習指導要領に基づく観点別評価を実施し、随時各教科で検証を重ね、教員用シラバスを作成したことで、評価に統一性をもたせる事ができた。</p> <p>②不登校傾向が続く生徒には、自宅で授業が受講できる同時双方向型の授業を調整し、2講座で実施する事ができた。意欲的に取り組める学校設定科目の充実や、基礎学力向上を目指した学習支援についても引き続き推し進めていく。</p> <p>③嫉妬したことで、生徒の情報共有やフォローアップをスムーズに行うことができた。また、養護教諭やSCやSSWを十分に活用したことで、専門家の助言・指導から家庭・生徒へ働きかけたり、生徒のケアに関する検討を促進できた。今後も様々な生育歴や学習歴をもつ生徒の実態把握に努めながら、基本的な生活習慣の確立や規範意識の向上を図るための手立てを具体的に検討し、粘り強く指導していく。</p> <p>④スクールサポーター事業等を活用し、学校内外の安全指導の視点や地域から求められる社会人の視点などを専門家からアドバイスをいただいたことで、社会自立に向けての生徒指導の視点を再確認し、生徒指導の資質・能力の醸成を図れた。</p> <p>⑤今後、変化の激しい社会情勢に対応できる生徒育成や社会状況に合わせ、見直しを進めながら実施することができた。今後も、自己理解と他者理解を深めながら、卒業後の社会生活における自身の姿を具体的にイメージすることにつながるプログラムを再構築していく。探究活動を通して段階的に、進路目標達成を目指す意欲を育てる。</p> <p>⑥進路決定者に対し、計画的に「内定者指導」を行い、「働く」とへの理解を深め、勤労意欲や就労意識の向上の醸成や社会補償等を学び、社会人としての意識を高め、卒業後の早期離職の未然防止に務めた。</p> <p>⑦今後も、生徒の主体性を大切にし、活躍できるよう適切にサポートしていく。さくら文化講演会などの伝統文化に触れる行事などで、プロの技に直に触れる経験を通して感受性を豊かにする取組みを充実させていく。</p> <p>⑧訪問先のごども達と係わりを深めたことで、自己有用感の醸成やコミュニケーション力の向上につなげることができた。「田尻さくら通信」の発行に加え、HPの充実や、高校教育課HPへ本校に係る情報の掲載など、情報発信をさらに充実させた。今後も、合同ごみ拾いや高校生による防災教育活動等、新たな地域交流の機会を引き続き模索し、地域を中心とした生涯教育への貢献と、開かれた学校づくりを推進していく。</p> <p>⑨教員研修だけでなく、防災ボランティアの生徒にも備蓄の確認、発電機の起動の仕方などを実施し、防災意識向上を確認した。</p>